

The 40th 第40回東京モーターショー2007

TOKYO MOTOR SHOW 2007 News vol.8



平成19年11月1日

世界に、
未来に、
ニュースです。

Catch the News,
Touch the Future.



マツダ

“走る歓び”つくる技術とデザインを提案



ロータリースポーツコンセプト「大気」

◀「流れ」をモチーフにした過去のコンセプトカーも

「サステイナブル“Zoom-Zoom”～現在と未来のマツダショールーム」——東ホール南側中央のマツダブースの特徴は、テーマであるこの言葉に凝縮されている。

ブースの奥に向かって右側のメインステージには、来春発売されるミドルクラスセダン&ワゴン「アテンザ」シリーズが展示され、左側にはマツダのデザイントレンドを予言する大胆なフォルムのロータリースポーツコンセプト「大気」と、過去の「nagare（流れ）」デザインコンセプトモデル群。

フロアには水素を燃料とするクリーンエネルギー車「プレマシーハイドロジェン RE ハイブリッド」および色とりどりの現行モデルが展示されているほか、ブース左サイドでは、マツダの近未来から遠い将来までのさまざまな技術がくまなく紹介されている。

ブース内を歩くだけで、先端技術開発から未来デザインまで、サステイナブル・モビリティの実現に向けたマツダの挑戦のすべてを見渡すことができるのだ。

「地球環境、交通環境のサステイナブルな未来のため、2010年代にはパワートレインを一新し、燃費・排出ガス性能、動力性能を高次元で両立させることを目指します」

井巻久一会長兼社長は10月24日のプレスブリーフィングでこのように述べ、環境性能を高める技術開発をベースとした、“見て乗りたくなる、乗って楽しくなる、そしてまた乗りたくなる”クルマづくりを行っていくことを示唆した。テクノロジーとデザインという、クルマの2大要素を前面に押し出したブースデザインには、マツダのクルマづくりへの思いが凝縮されている。



次期「アテンザスポーツワゴン(左)」と「アテンザスポーツ(右)」



「大気」は注目の的

マツダブースのメインステージ上にてジャパンプレミア公開された来春発売予定のミディアムクラス「アテンザ」シリーズは、今モーターショーにおける同社の主役のひとつ。「心を満たすロングツーリングクオリティ」をキーワードに、高い環境性能とドライビングの楽しさを両立させたモデルだ。日本的な美意識を採り入れたエクステリアデザインも売りだ。

デザイン提案では、2006年からマツダが世界のモーターショーで次々に提案してきた「nagare(流れ)」デザインシリーズの最新作となるコンセプトカー「大気」が来場客の注目を浴びている。ボディの周りの空気の流れを表現したという躍動感あふれるフォルムは、将来のマツダのロータリースポーツの方向性を示したものだという。



「プレマシーハイドロジェン RE ハイブリッド」

ボディ側面には水素供給口が



カラフルなデミオの展示も人気

将来技術が多数展示されているのもマツダブースの特徴だ。来年からリース販売される水素燃料車「プレマシーハイドロジェン RE ハイブリッド」は、水素を将来のクリーンエネルギーの本命と考えるマツダにとって重要なメルクマールとなるモデル。

エンジン展示では従来型ロータリーの弱点を根本から解消することを狙った新開発の直噴ロータリー「16X」、実用間近となった独創の「スマートアイドルストップシステム(SISS)」、次世代クリーンディーゼル、連続可変リフト機構により高効率化を図った次世代直噴ガソリンなど、多数が展示されている。それらのほぼすべてに説明用のタッチパネル式ディスプレイが設けられ、来場客は見ただけでなく、それらの装置を操作してアクティブに楽しめるのもマツダブースの特徴だ。

環境性能と走る喜びの 調和こそマツダがこだわる サステナブル“Zoom-Zoom”

マツダ
井巻 久一 会長兼社長



マツダは今年、環境問題という時代の要請に応えるため、地球環境のサステナブルな未来に向けた技術開発の方向性を掲げる「サステナブル“Zoom-Zoom”宣言」を策定し、環境性能と動力性能を高次元で両立させることを目指しています。次世代ロータリーを搭載した「大気」は、将来のFRスポーツの方向性を示したモデルです。水素ロータリー「プレマシーハイドロジェン RE ハイブリッド」は2008年度のリース販売開始を目指して開発を進めています。新型「アテンザ」は、走る喜びと環境・安全性能が調和した最高の高速ロングツアラーという、“Zoom-Zoom”の進化を象徴する商品です。マツダはこれからも「見て乗りたくなる、乗って楽しくなる、そしてまた乗りたくなる」クルマを提供してまいります。



ほぼすべての展示に説明用のタッチパネル式ディスプレイが



次世代ロータリー「16X」



革新技術「SISS」のデモ

フォード

ドライビング・アドベンチャーを象徴する2台のプレミア・カー



「ドライビング アドベンチャー」のショーターマーを象徴するかのごとき「フォード・エスケープアドベンチャー」がなんと言っても見所で、世界初出品モデル。エスケープのSUVとしてのDNAを正しく受け継ぎながらも、オンロードでの存在感を高めた都会的なデザイン・フォルムを特徴とする。



アメリカのアイコンを証明する
「マスタング GT カリフォルニア・スペシャル」

「マスタングV8 GT カリフォルニア・スペシャル」はパワフルな4.6リッターV8をまとっての登場だ。最先端のトレンドやファッションを生み出し続けるカリフォルニアをイメージ



よりアグレッシブなスタイルとなった「フォード・エスケープ・アドベンチャー」

化したリミテッドモデル。大型化されたヘッドランプがアクセント。シートクッション材料に大豆原料を採用して環境にも配慮を見せる。日本には来年夏に限定発売を予定している。

ボルボ

独自の環境コンセプトを本邦初公開



◀クロスカントリーモデルでは本邦初公開となる
「ボルボ XC70 3.2SE AWD」

▼現行ハイブリッドよりCO₂を大幅に削減した
「ボルボ・リチャージ・コンセプト」



ボルボブースで一際異彩を放つのが本邦初公開の「ボルボ・リチャージ・コンセプト」。各ホイール毎に独立したモーター（4輪インホイールモーター）と一般家庭の電気コンセントで充電できるバッテリー（電気モーター）を備える。バッテリーだけで約100キロメートルの走行が可能。燃費は同サイズのガソリン車に比べ約80%も低く抑制し、CO₂排出量は現在市販されている最も優れたハイブリッドカーよりも66%削減できるという。「安全のボルボ」から「環境のボルボ」にも挑む意欲作だ。



飲酒運転させない安全技術
「アルコガード」シミュレーター

また、自動車メーカーとして初めて飲酒運転を未然防止する「アルコガード」シミュレーターを発表し、アルコール濃度が基準値以上だとエンジンが始動しない仕組みが話題を集めている。

ジャガー

ジャパンプレミアを日本市場に限定販売



日本初出品の「ジャガー XF SV8」はジャガー新時代を告げるモデル。サルーンの枠を超えた、クーペのラインも鮮やかな革新的デザインのミディアムサイズスポーツサルーンだ。トランスミッションのセレクトに、レバーでなくダイヤルを採用しているのがクラシカルなアイ・ポイント。

モーターショー開催ギリギリに出品を間に合わせた「X-TYPE2.0 ソプリン」は日本市場限定モデルで、来年夏に全国100台の販売予定。Sovereignの称号にふさわしい上質な持ち味が魅力だ。



◀V6 DOHC2.0リッターエンジン搭載の「X-TYPE2.0 ソプリン」



▶ジャガー新時代を担う
「XF SV8」

ランドローバー

21世紀のラインナップを結集



▲滝のあるブース・デザインは
アドベンチャー精神がいっぱい。

▼クラストップレベルのオフロード性能誇る
「フリーランダー 2」



出品4モデルとも市販車ながら、ブランドフラッグシップのレンジローバーをはじめ、レンジローバースポーツ、ディスカバリー3、そしてカジュアルに乗れるSUVとして、今年フルモデルチェンジしたエントリーモデルの「フリーランダー2」と、完成とあいなった21世紀のラインナップを披露している。ブランドエッセンスである。“Spirit Of Adventure”を体験できる、滝が流れ落ちるブース構成になっており、4WD専門メーカーのマインドを伝えている。

10月30日開催

■講演者：(島、竹内氏はパネリスト兼務)

島 雅之(国土交通省 自動車交通局 技術安全部 技術企画課 国際業務室長)

竹内 健蔵(東京女子大学 文理学部 社会学科教授)

立石 一正(日本自動車研究所 安全研究部主管)

榎本 英彦(日本自動車工業会 安全・環境技術委員会 大型車部会委員)

■パネルディスカッション・パネリスト：

堀野 定雄(神奈川大学 工学部 情報システム創成学科准教授)

益子 邦洋(日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター長)

岩越 和紀(JAF MATE社 代表取締役社長)

横塚 正秋(埼玉県トラック協会 会長)

杉浦 秀明(日本自動車工業会 安全・環境技術委員会 大型車部会長)

■司会：室山 哲也(日本放送協会 解説主幹)

■主催：国土交通省



大型車の実証的な安全対策が活発に議論された

官民挙げての自動車安全対策も重点が乗用車から大型車にシフトしつつある。シンポジウムではそれぞれ専門分野の見地から、島氏が「今後の車両安全対策の方向性」、立石氏が「事故分析部会と安全基準検討会の活動状況と今後の活動方針」、榎本氏は「被害軽減ブレーキと大型車への適用」、竹内氏が「アルコール・インターロックの現状と可能性」と題する講演を行った。

大型車が絡んだ交通事故は双方の致死率が高いだけに対策の充実は喫緊の課題。続いてのパネルディスカッションでは、予防安全にお

ける車両対策、事故現場での原因分析、運送事業者によるドライバー教育、ドクターヘリ拡大を可能とする医療体制の整備、乗用車・トラックドライバー両者のミス・コミュニケーションの実態などが次々と浮き彫りになった。

パネリスト各氏からは意義ある提案も数々出され、司会の室山氏が行政の枠組みを超えたグローバルな視点と現実対応のローカルな行動が合わさった「グローバル」な取り組みの必要性を訴えてシンポジウムを締めくくった。なお、来場者は408名で満員の盛況ぶりだった。

SPECIAL

セーフティドライブ体験試乗会
最新安全デバイスの驚異的進化を体感

幕張メッセ西ホール近くの幕張海浜公園Gブロック内において、セーフティドライブ体験試乗会が毎日開催されている。トヨタ、ホンダ、日産、マツダ、メルセデス・ベンツ、BMWの6ブランドのモデルを使用し、ABS(アンチロックブレーキ)、ESC(横滑り防止装置)、TCS(トラクションコントロール)などクルマの安全デバイスの効果を、自身の運転によって体感できる。安全装置をONにしたときとOFFにしたときのクルマの動きをそれぞれ体感できるが、OFFの時にはいとも簡単にスピンするなど、思わぬクルマの動きに驚くドライバーも少なくない。また、同会場ではシートベルトコンビンサーも設置され、シートベルトの効果の高さも体感できる。



▲安全装置をOFFにすると簡単にバランスが崩れる



▲コース図に見入る



多彩な試乗車を用意

EVENT

今日のイベント(予定)

11月1日
(木)

<ライフスタイルパーク(西休憩ゾーン)>

- **ダブルダッチ**
10:45~11:15/15:45~16:15
- **bayfm78 東京モーターショーレポート**
11:30~12:00/14:00~14:30
- **千葉県警音楽隊 演奏**
12:00~13:00
- **トライアルデモンストレーション**
13:15~13:45/15:00~15:30

- **第5回 全日本 学生フォーミュラ大会参加車両・デモ走行**
11:00~12:00/13:30~14:30/15:30~16:30 (中央休憩ゾーン)
- **スロットカー・サーキット**
10:00~18:00 (北ホール2階・キッズパーク)
- **ミニシアター〜クルマの夢・楽しさ・素晴らしさ〜**
10:40~12:25/13:05~17:35 (国際会議場3階 302号室)
- **4×4 アドベンチャー同乗試乗会**
11:00~16:00 (幕張海浜公園Gブロック内 特設専用コース)
- **セーフティドライブ体験試乗会**
11:00~16:00 (幕張海浜公園Gブロック内 特設専用コース)
- **クリーンエネルギー車同乗試乗会**
11:00~16:00 (幕張海浜公園D・Eブロック内 特設専用コース)
- **商用車同乗試乗会**
11:00~16:00 (幕張メッセ周辺公道
幕張メッセ南休憩ゾーン東側通路発着 東ホール東側)

※試乗券配布場所：幕張メッセ南休憩ゾーン西側 ※天候等の都合により予定が変更になる場合があります。

毎分65枚フルカラー出力 印刷から加工までインラインで高速処理。
※A4ヨコ 多様なニーズに応えるハイパフォーマンス。

The essentials of imaging



フルカラー・オンデマンド高速印刷システム ON DEMAND PUBLISHER C65

このニュースは、コニカミノルタ
ON DEMAND PUBLISHER
C65で出力しています。コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社
プロダクションプリント事業部
TEL 03-5205-7820
URL http://konicaminolta.jp/pr/odp

The 40th

TOKYO MOTOR SHOW 2007

10月31日の入場者数 54,400人

入場者数累計 433,700人

東京モーターショーニュースVol.8 2007年11月1日発行

発行所 社団法人 日本自動車工業会 広報室
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館
TEL.03-5405-6119 FAX.03-5405-6136
WEB SITE www.tokyo-motorshow.com

JAMA